

杉本龍一、宮優明（環境科学科）・中島彩乃、長瀬遥南（臨床検査技術学科）
担当教員：坂西梓里、村山史世

研究の背景と目的

日本における廃プラスチック総排出量は年間824万トン(2021年)で、再びプラスチック製品に再利用するのは、未だわずか25%である。そのため、プラスチック問題の解決には、ごみを減らす「リデュース(Reduce)」という考え方が最も重要となる。そこで、本プロジェクトでは、町田市、アサヒグループHD(株)、ウォータースタンド(株)と連携し、町田市におけるマイボトル利用の普及・促進に取り組んだ。

研究・調査方法

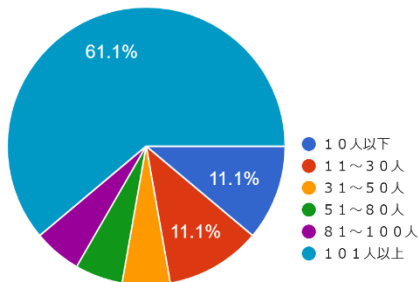
マイボトルOK店は、町田市のプラごみ発生抑制への取り組みの一つであり、持参するマイボトルに飲みものを提供することができる店舗である。今回、町田市におけるマイボトル利用の普及・促進に向けた課題を見出すため、市内のマイボトルOK店に対しアンケート調査を実施し、店舗でのマイボトルの利用状況やごみ発生抑制効果を調査した。さらに、店側の意見の抽出も試みた。そして、町田市立芹ヶ谷公園で開催されたFuture Park Lab 2021 Autumnに出展し、マイボトルOK店のPRを行った。この出展にあたり事前に店舗に訪問し、町田駅周辺の店舗にはイベントにご協力いただけるような仕組みづくりを行った。



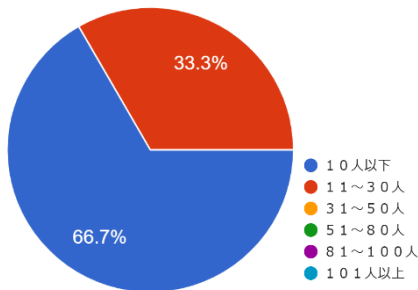
Future Park Lab 2021 Autumnでの出展の様子

結果と考察

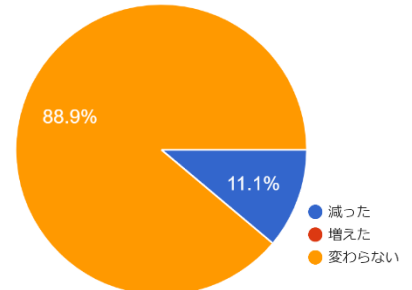
Q. お店の平均来客数は何人程度ですか？



Q. マイボトルを利用される方は何人程度ですか？



Q. マイボトルOK店に加盟して、ゴミの量は減りましたか？



アンケート調査の結果、マイボトルの利用者数は、平均来客数に対し1割～3割程度の人数であった。そして、マイボトルOK店に加盟したことでごみの量が減ったと実感している店舗は2店舗のみ(11%)にとどまった。アンケート調査およびイベントを通して、マイボトルOK店でのマイボトル利用率が低い原因は、市民における制度の認知度が低いためだと考えられた。そこで、本プロジェクトでは、店舗情報をSNSおよびアプリで発信することを市に提案した。

これから

今回課題として見出した認知度の向上に向けて、店舗情報の発信について、引き続き町田市と協議を行っていききたい。そして、店舗の主たる利用者である若年層にあった情報発信ツールを実現させていく予定である。